

NAGANO SDGs PROJECT



NAGANO SDGs PROJECT (長野SDGsプロジェクト)はSDGsの存在を知ってもらい学び、考え、実行してもらうことを活動の軸としており、長野県内で「SDGsを踏まえて考えることのできる人材」を育てることを目的としています。

特に、未来をつくる子どもたちへのSDGs教育に重点を置き、先生向けのSDGsセミナー、県内全学校へのSDGs教材の配布、学校へのSDGs専門家による出前授業などさまざまな取り組みを進めております。

〈SDGsを学ぼう〉

- 公開講座の開催 SDGsのセミナーを定期的に開催しています。オンラインでの講座、先生や企業向けなどもあり、学びのテーマや対象に合わせて開催しています。
- 出前授業 各種専門家によるSDGsの学ぶ機会を創出、学校向けに出前授業を開催。授業料は無料です。ワークショップやカードゲームなど体験しながら学ぶ授業もあります。

〈SDGsに取り組もう〉

- みんなのSDGsの宣言 企業や学校の取り組みを紹介。SDGsへの取り組みは、ひとつひとつは小さな一歩かもしれませんが、集まると大きな動きになります。誰でも取り組めることがSDGsの魅力、みんなでSDGsに取り組もう!
- SDGs7ポスター展 SDGsをテーマとしたポスターを募集、その作品を紹介。「10年後の未来をよくするために私たちにできること」をテーマにたくさんの生徒さんたちから作品をご応募いただきました。ぜひ作品をご覧いただき、制作の想いについてもご覧ください。今回のやまびこ紙面では、その中の作品の一部を掲載しています。
- SDGs自由研究 生徒自身が様々な課題について研究や分析し、その結果をまとめています。今回自由研究の取り組みを通して、たくさんの生徒さんからご応募いただきました。研究成果をクリックいただくと研究に至ったワークシートもご覧いただけます。

NAGANO SDGs PROJECT
ホームページには様々な取り組みが掲載されています。
<https://www.naganosdgs.jp>



SDGs

持続可能な開発目標
私たちができること



本紙で引用したSDGsのハンドブックは下記のホームページからダウンロードできます。

- マルフレート・デ・ヘル作『地球と17のゴール』日本語版 能登SDGsラボ <https://noto-sdgs.jp/>
- ハンドブック『私たちが目指す世界 子どものための「持続可能な開発目標 (SDGs)」』日本語版 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン <https://www.savechildren.or.jp/lp/sdgs/>

長野県 伊那弥生ヶ丘高等学校 (伊那市) の取り組み

ふくしの学び 事例紹介



全体で福祉について自由に語り合いました。

探求の時間におけるふくしの学び

伊那弥生ヶ丘高校では、今年度、「総合的な探求の時間」を利用し、「災害×福祉」をテーマに学びを深めてきました。今回は、最終的に1本の動画にまとめることを目標とし、生徒自身が学習テーマを選択し、学習を進めてきました。授業では、「ふくしとは」「災害とは」といったところから一方的に教えるのではなく、講師となる伊那市社会福祉協議会や生徒同士の対話をしながら価値観を築きます。その後、自主的に伊那市社会福祉協議会の講座に参加し学び、被災された方にインタビューを実施するなど、生徒自身が自ら主体となって学びを深める「探求の時間」の実践となりました。

小グループに分かれてテーマごとに学びを深めました。

学習指導要領の改訂により、高校の「総合的な学習の時間」は、2022年度から「総合的な探究の時間」に変更されます。(現在は移行期間)「総合的な探究の時間」では、生徒が主体的に課題を設定し、情報の収集や整理・分析をしてまとめるといった能力の育成を目的としています。

参考: NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ、長野県 信州こどもカフェ

協力: 木島平村立木島平中学校、松川村立松川小学校、長野市立松代小学校、長野市立東北中学校、長野県伊那弥生ヶ丘高等学校、NAGANO SDGs PROJECT

令和3年2月発行 発行: 社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター
〒380-0936 長野市大字中御所字岡田98番地1 長野保健福祉事務所庁舎内
TEL.026-226-1882 FAX.026-227-0137
E-mail vcenter@nsyakyo.or.jp URL <http://www.nsyakyo.or.jp/>



こども食堂ようこそ!

*本紙の特集事例をよりくわしく解説! あわせてご活用ください。

先生方へ
やまびこだより
No.158・159
今号の特集から

こども食堂は みんなの居場所

食事の提供

子どもの居場所

いろいろな役割があります

好きなことを楽しんだり遊んだりできる安心の場所

学習支援

勉強を教えしてもらったり宿題をしたりする場所

悩み相談

困っていることや心配ごとを話せるやさしい場所

学用品の再利用

地域交流の場

みんなが集まり、一緒に過ごすことのできる場所

「こども食堂」とは、子どもが一人でも行ける無料または低額の食堂です。「地域食堂」「こどもカフェ」という名称のところもあります。民間発の自主的・自発的な取り組みで、目的も、子どもへの食事提供から、孤食の解消、地域交流の場づくりと、さまざまです。

特集の概要

子どもにとって居場所が必要な理由

日本の子どもの自己肯定感は、世界的に見ても低いです(内閣府『子ども・若者白書』2019)。自分のことを好きになれなかったり、自信を持てなかったり、自分が何の役にも立ってないと感じる子どもたちが増えています。そのような中で、子どもがありのままの自分を取り戻し、安心して過ごせる場所が求められています。

学校や家庭だけでは行き詰まってしまうこともあります。子どもたちの自己肯定感を育み、子どもたちの健やかな成長を支える場所は地域にも必要です。

どのような居場所が理想的か?

子ども支援の現場では、ナナメの関係が大切と言われています。親や先生との上下の関係だけでなく、いざという時に助けを求められたり、気持ちを聞いてもらえる

近所のおばさんやおじさん、お姉さん、お兄さんたちとの関係づくりは大切です。

子どもの居場所では、異年齢の子どもたちどうしが交流するヨコの関係も作ることで、子どもたちの有用感や自己肯定感を高めるきっかけも生まれます。

地域の子どもの居場所作りで注意したいこと

いわゆる「支援者臭」を出しすぎないこと。子どもたちは「お説教」を聞きたくありません。「上から目線」ではなく、子どもたちの気持ちに寄り添って、話を聴くことに徹底すると良いと思います。

話を聴く中で、子どもたちから気になる発言(暴力や虐待の兆候など)があった時には、行政の相談員や相談センターなど専門機関につなげることも大切です。

そのためには、子どもとの関わり方や配慮の仕方について、居場所づくりを行って

いる人たちが学び合えるような機会を作ることも大事です。

平時の子どもの居場所は災害時の子どもの居場所にもなります!

2019年の台風19号の際、子ども食堂や子どもの居場所づくりなどを地域で行っていた団体が、いち早く、被災した子どもたちに食事や居場所を提供しました。

普段からの子ども支援の活動は、災害などの緊急時に、子どもたちが安心して過ごせる場を提供し、日常生活を取り戻せるように子どもたちを支援する場にもなります。

NPO法人災害時こどものこころと居場所サポート 代表 小野道子

●参考
内閣府『令和元年度 子供・若者白書』
https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/r01gaiyou/pdf_indexg.html

こども食堂Q&A

Q.1 食事代は
いくらするの?

A 無料～数百円です。
子どもは無料か低料金、大人は
数百円のところがほとんどです。

Q.2 どんなところ
にあるの?

A ご近所の自宅や店舗、福祉施設、
公民館などでオープンしています。
地域の人たちやいろんな団体が
ボランティアで運営しています。

こども食堂によって
食事代や開所時間、
利用内容はそれぞれなので
事前に確認してください。

●地域食堂
●こどもカフェ
●みんな食堂
などなど

こども食堂は
いろいろな
呼び名があります

こども食堂にはいろんな形があります
こども食堂には多様性があり、地域性や規模、開催頻度などさまざまです。
「子どもが一人でも利用でき、地域の方々が無料または、少額で食事を提供する場所」というのが共通した考えの一つになっています。また、地域の安心した居場所としての空間の提供、多世代や地域の方との接点、コミュニケーションの場所にもなっています。
運営は、市民活動団体や主婦の方や自治会など様々です。一度、自分のお住いの地域のこども食堂を見学したり、ボランティアとして参加してみるとその雰囲気がかめると思います。

Q.3 いつ行っても
いいの?

A 平日の放課後～夜、または休日に
食事会を開くところが多いです。
月1回開催のところから365日3食提供の
ところまで、数人を対象としているところから
毎回数百人が集まるところまで、多様です。

Q.2 全国に
どれだけあるの?

A 4,960か所あり、
どんどん増えています。
2020年12月現在、約4,960か所、
コロナ禍(2020年2月以降)でも
さらに増えています。
(2020年12月むすびえおよび全国の地域ネットワーク共同調査)

県内のいろいろなこども食堂

本紙で取り上げた活動事例

公民館・児童館



古里カフェ (長野市)
当初は高齢者の施設を活用。子ども
たちが近所の人たちと一緒になっ
てモノ作りをしたり一緒に工作をし
たり料理を作ってみながら食べます。

商店街のお店



まちの駅ふじや (箕輪町)
空き店舗を活用し、箕輪進修高校が
ボランティア部員も実行委員として協
力。子どもから高齢者までの多世代
の居場所となっています。

近所のお店



だがしやG (中野市)
昔楽しかった駄菓子屋さんを、今の子
どもたちにも体験してほしいという思
いから開店。一人暮らしのお年寄り
と一緒に茶を飲んで、楽しく過ごし
ていく子どももいます。

出張・お届け



おむすび会 (安曇野市)
地域住民が集まって交流する「お
むすび会」が新型コロナウイルスの
感染拡大を受け、中止に。不安を感
じている子どもたちや高齢者に元氣
を出してもらおうと市社協協賛支所
が企画。地域の公民館を回っておむ
すびとメッセージを届けています。

オンライン

子どもの居場所@バーチャル(長野市)



NPO法人ながのこどもの城いき
きプロジェクトが台風19号の被災地と
なった地域の中学生を対象に、地域の
自習室+オンライン自習室を運営。参
加者には、同じ軽食とタブレットが手渡
され、会の始まりや合間には、軽食を
食べながらの雑談の時間も設けられて
います。



木島平こどもカフェ (木島平村)
村農村交流館で、地元農林高校の生
徒も参加し、一緒にしおりに作っ
たり、遊んだりしています。会場までは
こどもカフェバスも運行。



夢かなえ食堂 (飯田市)
園児から高校生が地域の人と一緒に
料理して食事します。平日は自由に
来て宿題や自主勉強。元塾の先生や高
校生も教えてくれます。



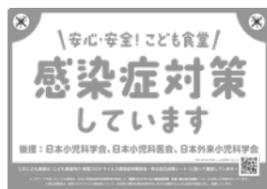
NPO 法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ

NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえは、「こども食堂の
支援を通じて、誰も取りこぼさない社会をつくる」をビジョンに掲げて
います。子どもの貧困問題を解決することを、行政とこども食堂の運営
だけに任せている現状を問題として取り上げ、各地域のこども食堂ネッ
トワークの支援と、社会に貢献したいと考えている企業・団体とつな
がり、こども食堂へ支援を届ける活動を行っています。

そのほかにも、独自に調査・研究を行い、講演会などでの啓発活動
もむすびえの担う役目です。

NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
☆コロナ困りごとアンケート調査結果(10月時点)
<https://musubie.org/news/2601/>
☆こども食堂個所数調査(2020年12月23日発表)
<https://musubie.org/news/2898/>
☆「こども食堂白書」むすびえ著(12月23日刊行)
<https://musubie.org/news/2906/>

コロナウイルス感染症対策とこども食堂の開催



コロナにおいて、こども食堂は居場所としての開催は難しいと
ころが多くなりましたが、日頃からのつながりを生かし、お弁当や
食材等の配布などのフードパントリーの活動などにかえ、子ども、
子育て世帯等とのつながりを守り、活動を続けています。

NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
☆新型コロナウイルス対策緊急プロジェクト特設ページ <https://musubie.org/corona/>



信州こどもカフェ(子どもの居場所づくり)について 長野県



長野県では、県内で行われている様々な子どもの居場所の取り組みの中で、学習支援、食事
提供、悩み相談、学用品等のリユースなど複数の機能を提供し、月1回以上計画的に開催されて
いるものを「信州こどもカフェ」という愛称で呼ぶこととし、その設置を推進しています。

「信州こどもカフェ」(子どもの居場所づくり)について
<https://www.pref.nagano.lg.jp/jisedai/hitorioya/ibasyohome.html>
信州こどもカフェマップ
<https://musubie.org/news/2906/>



県内の信州こどもカフェの活動状況を多くの方に知っていただくために、名称や所在地など
が分かる「信州こどもカフェマップ」を県として作成しています。
開催日時、場所、参加費等は変更になることがあります。参加の際は事前に各信州こども
カフェにお問い合わせください。